

第82回山陽新聞奨励賞 文化部門受賞

山陽新聞社が毎年行う「文化、社会、学術、産業などの分野で、地域社会に貢献した個人・団体に贈り、功績を讃える山陽新聞賞・山陽新聞奨励賞」の発表があった。

菅茶山顕彰会は「山陽新聞奨励賞・文化部門」に選ばれ、1月11日には贈呈式が山陽新聞本社（岡山市）で開催され、藤田会長と武田副会長が出席。賞状・記念メダルと賞金を頂いた。

賞状には「菅茶山の顕彰に努められ菅茶山生誕祭や茶山ポエム絵画展、会報の発行など長年にわたる継続的な活動で郷土の偉人の業績を広く発信されています」とある。

今回の受賞は、誠に光栄であると共に、山陽新聞社の紙面により、菅茶山を広く知ってもらうよい機会となり、今後の活動の励みになるものである。

文化部門

菅茶山顕彰会 殿

あなたは 地元出身の儒学者・菅茶山の
顕彰に努められ菅茶山生誕祭や茶山ポエム
絵画展の開催 会報の発行など長年にわたる
継続的な活動で 郷土の偉人の業績を広く
発信されています

ここに山陽新聞奨励賞を贈り功績をたたえます

令和6年1月11日

山陽新聞社

社長 松田正己



賞状と記念メダル

奨励賞 文化部門受賞

2023. 1. 13、山陽新聞
奨励賞について記載する
山陽新聞記事

受賞理由

当代随一の漢詩人と評された江戸後期の儒学者菅茶山（1748～1827年）。偉人の業績を後世に伝えようと、出身地の福山市神辺町地区で顕彰活動に長年励んでいる。

1986年の没後160年祭を契機に、有志が翌年結成した「菅茶山遺芳顕彰会」が前身。識者を招いた学習会、会報などで業績や人柄に迫るほか、現在は「生誕祭」に切り替わった記念式典を5年毎に開く。

子どもと茶山の懸け橋となる公募展「茶山ポエム絵画展」は2022年度に30回を迎えた。現代詩を「茶山ポエム」と称し、「冬夜読書」などの代表作から偉人への敬愛と郷土愛をはぐくもうと1993年に始めた高校生以下がみずみずしい感性で描いた応募作は近年毎回3千点を越え、市内の巡回展で市民の目を楽しませる。

68人の会員は大半が60代以上と高齢化が進み、ウェブサイトやSNS（交流サイト）で情報を発信し、会員獲得を目指す。藤田卓三会長は「没後200年の節目が近づいている。晩年まで精力的に活動した茶山のように、息の長い取り組みを続けたい」と語る。

（2024年1月13日山陽新聞紙面より転載）